

---

# 犬の気持ち

花 サクラ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

犬の気持ち

### 【Nコード】

N9135G

### 【作者名】

花 サクラ

### 【あらすじ】

犬のアオが優しい少女に拾われる。頭が悪く雑種のアオ。アオの家族への気持ち。

僕ってダメな子なの？

僕って愛されてないの？

気がつくとは僕は闇の中。

昨日までの記憶がない。

記憶がないというか記憶を消した。

寂しくて悲しくて、不安で…けど僕は憎む事ができない。

ただ愛されたかっただけ。

ただ側にいたかっただけ。

憎む事ができない僕には、孤独しかなかった。

『ママ〜！見て〜！』『なあに？』

『ワン』見つけた！』

そうやって僕を小さな腕で抱きしめてる女の子。

今日で何回目だろう…

抱きしめられて安心して、けどまた同じ場所に戻されて…

少しの幸せを与えてくれる。

この女の子もまた同じ場所に僕を届けに行くだろう。

『可愛いワンちゃんだね。どこにいたの？』  
『公園のトイレの横にいたよ。』

女の子がそう言い終わると、母親は僕を抱き上げた。

白い毛は茶色い汚れと毛玉。

目は右が黒で左がブルー。

耳は垂れていて、爪も伸びびっぱなし。

僕は血統書の付いていないマルチーズの雑種。

『可愛いわね〜。』

『ママあ。お家においてあげようよ！雨の日お外だと風邪ひくよ。』

『う〜ん…でもワンちゃん飼うのって大変だよ。パパに相談してか  
らにしようっ〜』

『この子帰るお家ないよ。アユが面倒みるから！お願いおいてあげ

ようよ！』

『う〜ん…』

アユちゃんって言うんだなあ…

一生懸命僕の事頼んでくれてるんだ。

それにしてもお母さんに抱かれてるとなんだか落ち着くなあ…  
いい匂いだし優しい手してる…

僕は眠くなっちゃって、お母さんの腕の中で寝てしまった。

あったかいなあ…

目が覚めると僕は毛布の上で寝ていた。  
そして隣にはアユちゃんがじっと僕を見る。  
僕もアユちゃんをじっと見てた。

「名前何がいい？」

いきなり僕に話しかけてきた。

「ジョン？ポチ？ラッキー？何がいいかなあ？」僕の名前を考えてるの？

「左のお目めが青いから、アオにしよう！」  
この日から僕はアオとして生きていく。

「キャイン…キャイン…」

「このバカ犬！いつまでたってもトイレの場所も覚えなくて！やっぱり血統書の付いてない犬はバカ犬！」

「お母さん。もっと可愛い犬買ってよ。小さくて賢い犬がいいなあ！」

（お願い！僕を捨てないで！僕を愛して！）

「バカ犬なんとかして可愛い犬探そうつかあ。」

（僕…僕…僕は君たちが大好きだよ。）

僕は目を覚ますと涙が出ていた。

『アオ〜！おはよう！』

アユちゃんが僕に挨拶をしてくれる。

あれから毎日アユちゃんと一緒に寝て、顔をぺろぺろ舐めて朝の挨拶をする。

リビングに行くとお母さんとお父さんがもう起きている。

僕はお母さんもお父さんも大好き！

初めて家に来た僕を大反対していたお父さん。

今ではこっそりおやつをくれる。

おやつをくれると頭を撫でてくれて、『内緒だよ』って言うんだ。

お母さんはアユちゃんが学校に行ってる間、僕にいろいろお話ししてくれる。

隣のおばさんの話しや、アユちゃんの事とか。

そしてトイレの場所も、一生懸命教えてくれたのもお母さん。

僕頭悪いからいつも失敗ばかりだったけど、お母さんは優しく教えてくれた。

初めてトイレの場所でできた時は、抱きしめて誉めてくれたんだ。

僕その日からちゃんとトイレできるようになったんだ。

アユちゃんは学校から帰ったら、僕を散歩に連れて行ってくれる。

散歩っていうか一緒に遊ぶんだ。

ボール遊びは最高に楽しかったなあ…

そして夜は同じ布団で寝るんだ。

僕毎日寂しくないよ。

けどね…

夢をよく見るようになったんだ。

アユちゃんに拾われる前の…

僕の悲しい記憶が夢に出てくる。

『どこら辺だったら戻って来ないかしら?』

『山の中だったら戻って来ないだろう?』

『じゃあお父さん今から車で行ってくれる?』

『今から?明日早いから明日でもいいだろう。』

『じゃあ明日よろしくお願いしますね。』

僕は逃げ出したんだ。

よくわからないけど、僕はきつと捨てられる。

僕はこんなに大好きなのに…

僕は頭悪いから…

可愛い犬じゃないから…

血統書がないから捨てられる。

無我夢中で走ったんだ。

捨てられるのは嫌だ。

大好きだった人達を憎みたくない!

僕は自ら迷い犬になったんだ。

今僕はとても幸せなんだ。

優しい家族がいて、そしてかけがえのないアユちゃんがいて。  
僕って幸せ者だなあ…

あれから10年。  
僕は年をとったよ。

アユちゃんは綺麗なお姉さんになってる。  
アユちゃんとは今でも一緒に寝てるんだ。  
散歩はね、僕が体力無くなったから抱っこで連れて行ってってくれる。  
お母さんも僕の歯が弱くなってるから、毎日柔らかいご飯を作ってくれるんだ。

これがすごく美味しいの！  
トイレも一生懸命教えてくれたけど、今じゃトイレまで歩くのも大変でさあ。失敗ばかりで申し訳ないけど、お母さんは怒らないんだ。  
お父さんは今だにこっそりおやつくれる。  
まだ内緒なんだって。  
ホントみんな優しく僕は大好きになったよ。  
この家族とは別れはないって信じてたけど…

別れて突然くるんだ。

僕、頭悪いし血統書もないし…

目の色も違うけど健康だったのに…

アユちゃんと…

お母さんと…

お父さんと…

お別れの日が来ちゃったよ。



僕の最期の時、みんな僕の側にいてくれたんだ。

動けなくなつた僕をみんなが呼んでる。『アオ〜！アオ〜！』  
っ  
て…

ホント最期まで僕は幸せだよ。

大好きな家族に囲まれてさあ…

僕をこんなに愛してくれてありがとう。

僕を受け入れてくれてありがとう。

たくさん幸せをありがとう。

僕頭悪いけどさあ…

人を嫌いにならなくてよかったよ。

アユちゃん達に出逢えて良かったよ。

最期までホントありがとう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9135g/>

---

犬の気持ち

2010年10月12日20時16分発行